

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEIF旭川		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い公園や体育館で、目一杯身体を動かすことができる	出来る限り、たくさん身体が動かせるように、待ち時間を減らしたり、全員で動けるプログラムを作ることによって、集中力を切れさせないようにしている。	理学療法士もいる為、より身体づくりや運動機能という部分にも重点を置いたプログラムの作成。 また保護者にも共有することによって、児童の個別の課題を把握することができる。
2	学校休校日には、毎回イベントを行っており、児童に飽きさせないとともに、色々な経験をしてもらっている。	土曜日のイベントは毎週となるため、同じようなイベントが連続しないように日程の調整を行っている。 また『自然体験』『公共機関体験』『製作』『クッキング』など、様々なイベントを企画している。	新たなイベント企画。 製作やクッキングであれば、個々に合わせてやることを調整するなど、個々に注視した計画をより充実させる。
3	児童への特性理解と、個別の対応	毎朝の申し送りにて、前日の療育の振り返りと当日の療育の確認を行っている。	前日の振り返り時に、次回に向けた支援方法まで決めて行く。また申し送りのデータを全員で見えることを行なう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時間の療育	人員不足により、送迎時間中の療育が不十分を感じる日もある。	現在も行っているが、人材確保に向けて求人募集を行なう。
2	運動嫌いの子や積極的に動けない子への支援	運動が苦手な子は入りたがらないこともあるため、運動量の確保が難しい。 積極的に他児童とのコミュニケーションが取れない子は、ボールに触る回数も減ってしまうこともある。	個別の練習も用意しながら、全体での活動も行なっているようなプログラムを作成していく。
3	冬季期間の活動場所と時間	冬季期間は、体育館での活動となるが、使えないこともあり、その際の確保が難しくなることもある。また、移動等により活動時間が短くなることもある。	活動時間の延長や体育館を使わない活動方法も検討していく。